

---

# DTstory ~ デュエルターミナルの世界 ~

鴉 ~ 夢の運び屋 ~

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D T s t o r y 〱 デュエルターミナルの世界〱

### 【Nコード】

N 1 5 7 2 R

### 【作者名】

鴉〱夢の運び屋〱

### 【あらすじ】

遊戯王デュエルターミナルの世界で起こる事件、事象、変化、進化等々を自己視点で書いて行く物語。このストーリーは、ターミナルの世界観に基づいて書いている為、少し「俺の ほんなに柔じゃねえ！」とかって言いたくなるかもですけど、静かに読んでみてください

## 第1抄 始まりの円舞曲

誰も知らない異世界、そこにこの世界は存在していた。モンスター達しかいない世界。人の形をとる者はいても、その人たちもモンスターだ。

「ピヤアアアア・・・」

一匹の鷹の様なモンスターが空を駆ける。

それを受け止めたのは一人の中年風の男だった。

比較的寒いこの場所では珍しく薄い服とマフラーしかしていない。

「・・・そうか、此処にも居ないか・・・何処へ行かれたのだ・・・ブリューナク殿・・・」

男はそう呟くと何処へ行くとも分からないほどに広い地平を歩いて行った。

一方、此処は風が吹き荒ぶ中にひっそりと存在している集落「霞の谷」

「ピョロロロロロツ・・・」

「むっ？雷鳥が危険を・・・？祈祷師様、お早く。」

「分かっております。」

大きな鳥がグルグルと旋回している下で、一人の武装した男と、一人の装束に身を包んだ女性が居た。

鳥の行動に違和感を覚えた男が、女を急かすように言う。

女もそれに答えて祈祷を続けている。

彼女が祈祷を捧げている相手、それは後に有力な仲間になるであろう者のことだ。

一方その頃

「グオオオオオオオオ・・・」

得体の知れない奇怪な物質が、一人の戦士を追い詰めていた。この戦士は、見た目からして人では無い。寧ろ獣に近い存在だ。両腕には巨大な鉤爪が装備されている。

「ガアアアアアアアアアッ！！」

「くう、かわしきれない・・・」

その巨大な物質が攻撃を仕掛けているのを、戦士はじつと堪えてかわし続けていた。

よく見れば、身体の至る所に傷跡や粘着物が付着している。

それからも分かる通り、この物質は一種の生命体として戦士を襲っているのだ。

「何をしておるか！若者よ！」

何処からか聞こえて来た声の主は、自分の背丈ほどもある大きな剣を投げて、先程まで闘っていた物質を無力化させた。

その威力は絶大で、地面にクレーターの様な物が出来ている。

「総剣司令?!」

「司令、こちら、殲滅完了いたしました。」

「同じく、戦線維持部隊も全員無事です。」

「うむ、御苦労。撤退だ！」

剣を投げた張本人は、剣を引き抜くと同時に足元に駆けよって来た二人の部下の報告を聞いて安堵のため息をついて撤退命令を下した。それに従った部隊は揃って司令を守る様な形で撤退している。その後、その地で動かなくなっていた物質は活動を再開。侵攻をする為の準備へと戻って行く。

「ガウガウ!!」

「グルルル・・・」

「ここらこら! 喧嘩するなつての! たくつ・・・」

所変わつて、此処は火山内部に有るとある攻略基地。

ここで、二匹のドラゴンが喧嘩をしていた。

直ぐに飼い主の男がそれを宥めて事なきを得たが、男の方はすっかり気が滅入っている様子。

「貴様は、だらけることしか知らんのか? マジカル。」

「おつ! ウルキサスの旦那じゃねえか! 丁度良い所に・・・」

暫く休憩も兼ねて壁に凭れかかっていた男だったが、隣の通路から現れた一人の大男に声を掛けられて身体を硬直させている。

ウルキサスと呼ばれた巨漢は、ため息を吐きつつも床へ座り込むと、何処からともなく取り出した酒瓶に手を付けた。

「まあ、今日は無礼講だ。貴様も飲め。儂が許す。」

「ええっ?! マジっすか? それじゃ、遠慮なく・・・」

酒を飲み始めた二人は、そのまま酔いに興じて戦闘の真似ごと等をしていたが、幸い怪我はなにも無い。

そして、拠点である事を忘れて二人は酒におぼれて行った。

場所は変わって・・・

「我々八、貴様ノ侵入ヲ許サナイ。早急ニ此処ヲ立ち去レ。」

「フシユウウウウウ・・・」

「・・・攻撃行動ノ移行ヲ確認。排除行動ニ移ル。」

数体の機械が、一体の巨大な芋虫を囲んでいた。どうやらこの虫、かなりの強敵のようである。

体中から紫色の煙を吐き出し、一歩で地響きが聞こえてくる。

そんな敵に、ロボットたちは苦戦を強いられていた。実際、足元に

は何機にも及ぶ機械達が煙を噴き上げて動かなくなっている。

「総員二告グ。暗黒振動弾使用許可、申請無事終了。コレヨリ、排除駆動ヲ開始スル。」

「グガアアアアアアツ・・・」

砦から出て来た一体のロボットが、一発のミサイルを芋虫に撃ち込んだ。

すると、見る見るうちに芋虫が発生したブラックホールに吸い込まれていく。

暫くすると、芋虫の姿は何処にもなかった。

「殲滅終了。各ジャステイス八、既定ノコンテナへ収容後、待機セヨ。」

先程ブラックホール弾を撃ち込んだ機体が、それぞれの機体に指示を出した。

すると、見る見るうちに機械達はコンテナへ自分で帰還。帰って充電でもしているのだろうか。

次回に続く！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1572r/>

---

DTstory ~ デュエルターミナルの世界 ~

2011年6月11日22時19分発行